

感謝込め高校生ら制作

「I♡NAGANUMA」。暗闇に光り輝く文字が浮かび上がると、見守っていた地区の人たちの大きな歓声が沸き上がった。「2020長沼イルミネーション」の点灯式は6日夜、須賀川市長沼市民サービスセンター前で行われ、制作に当たった長沼高の志賀新生さん（1年）は「長沼への感謝の心を込めて作りました」とあいさつした。



暗闇に浮かび上がった「I♡NAGANUMA」のイルミネーション文字。地域への愛着を表現した

長沼愛 闇に浮かぶ

来年2月まで
須賀川で点灯



「長高ねぶた」の代わりに制作した七福神の「ねぶたイルミネーション」



「長沼への感謝を込めました」とあいさつする志賀さん

イルミネーションは長沼商工会、長沼観光物産振興協会の主催。デザインから制作、同センターの壁一面を使った飾り付けまで長沼高の生徒が手掛けた。クリスマスツリーやサンタクロースなどをあしらった飾り付けも施された。

その中でも、生徒たちが特に心を込めたのが「長高ねぶた」。同地区では毎年9月に地区の住民手づくりのねぶた、ねぶた、みこしが練り歩く長沼まつりが開催されている。しかし、今年はコロナ禍で中止となり、長沼高のねぶた制作も見送られた。そこで生徒たちは、代わりにねぶたのイルミネーション制作を企画した。

「長高ねぶた」の代わりに制作した七福神の「ねぶたイルミネーション」

点灯式には約300人が詰め掛けた。イルミネーションがお目見えすると「きれい」「すごい」と感嘆の声が響き、お年寄りからは「長高のみんな、ありがとう」の声が上がった。

あいさつに立った志賀さんは「私たちは長沼の皆さんに支えられています。元氣を出してもらえたら」と呼び掛けた。

式では打ち上げ花火や長沼商工会女性部のハンドベル演奏も行われ、露店コーナーも設けられた。地区の人に長沼高の生徒たちも交じって、イベントを楽しんでいた。

イルミネーションの点灯は2月28日まで行われる。